



2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年4月14日

上場会社名 株式会社グッドパッチ 上場取引所 東
 コード番号 7351 URL <https://goodpatch.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 土屋 尚史
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員CFO (氏名) 榎島 俊幸 (TEL) 03(6416)9238
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け、個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第2四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	1,818	△2.1	118	△65.3	123	△63.8	97	△55.1
2022年8月期第2四半期	1,857	38.2	342	42.7	341	47.8	218	16.4

(注) 包括利益 2023年8月期第2四半期 97百万円(△55.3%) 2022年8月期第2四半期 217百万円(15.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第2四半期	11.70	11.46
2022年8月期第2四半期	27.32	25.89

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	3,961	3,316	83.4
2022年8月期	4,169	3,209	76.8

(参考) 自己資本 2023年8月期第2四半期 3,304百万円 2022年8月期 3,201百万円

(注) 前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年8月期第2四半期に係る各数値及び比較情報については、取得原価の配分に重要な見直しは反映されております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年8月期	-	0.00	-	-	-
2023年8月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,914	5.1	301	△23.6	305	△22.9	189	160.6	22.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年8月期2Q	8,391,880株	2022年8月期	8,347,680株
2023年8月期2Q	925株	2022年8月期	819株
2023年8月期2Q	8,374,054株	2022年8月期2Q	7,985,538株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料のP. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(会計方針の変更)	12
(セグメント情報等)	13
(企業結合等関係)	14
(重要な後発事象)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、2021年12月22日に行われた株式会社スタジオディテイルズとの企業結合について前第2四半期連結会計期間に暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定したため、前年同四半期連結累計期間との比較・分析にあたっては、暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を用いております。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、ウクライナ及びロシアの情勢による経済活動への影響懸念、世界的なインフレの進行リスクに対応した政策金利の引き上げ等、経済環境の先行きは不透明な状況が続いております。日本経済においては、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対するワクチン接種の進展や行動制限の緩和等により社会経済活動の正常化に向けた動きが見られましたが、原材料・エネルギー価格の高騰や円安進行による為替動向の懸念、物価の上昇等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。加えて、日本企業は、グローバル化、戦略実現のスピードアップ、イノベーション創発、企業間連携の促進、生産性の向上、また、それらを実現するためのテクノロジーの活用といったテーマに直面し、激しく変化する市場環境における経営のあり方そのものの見直しを迫られております。

特に大手企業を中心に、デジタルの力で新規事業やビジネスモデルの変革を行うことを余儀なくされており、「デジタルトランスフォーメーション（DX）（注1）」に強い関心が寄せられ、既存のビジネスモデルや業界構造を大きく変化させる新たなデジタル化の流れに注目が集まっております。企業はユーザーにより高い付加価値を提供するため、クラウド等のプラットフォーム、スマートフォンやIoT等の新たなデバイス、AIやブロックチェーン等の新たなテクノロジーを組み合わせたプロダクトやサービスの開発に取り組んでおります。そして、これらデジタル技術を活用した取り組みは、従来のビジネスモデルや業界構造を大きく変化させる可能性があります。

このような事業環境の中で、当社グループは「ハートを揺さぶるデザインで世界を前進させる」というビジョンのもと、「デザインの力を証明する」というミッションを掲げて、「デザイン」を通じて人々の生活がより便利になり、より暮らしやすくなることを目指し事業活動を推進してきました。具体的には、顧客企業を利用するユーザーの根本的なニーズに基づいたユーザーエクスペリエンス（UX）を実現し、顧客企業が提供するプロダクトやサービスに期待される価値創造の支援や、最適なデザインを設計するサービスであるデザインパートナー事業、そして、自社サービスである「ReDesigner」、「Strap」、「Prott」などのプロダクトで構成されるデザインプラットフォーム事業を主要事業と位置づけ、相互にシナジーを創出することに注力しながら推進してまいりました。また、当社グループでは、当社の強みである戦略デザインやUI/UXデザインと、連結子会社である株式会社スタジオディテイルズの強みである質の高いクリエイティブとブランディングを融合し、顧客企業のさらなる期待に応えられるデザイン支援を提供できるよう、企業価値向上に取り組んでおります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,818,068千円（前年同期比2.1%減）、営業利益は118,695千円（前年同期比65.3%減）、経常利益は123,520千円（前年同期比63.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は97,979千円（前年同期比55.1%減）となりました。

報告セグメント別の業績の状況は以下のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、前年同期比較は、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値と比較しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載のとおりであります。

① デザインパートナー事業

デザインパートナー事業は、顧客企業の持つ本質的な価値を発見し、その要素を紐解きながら、顧客企業のユーザーが持つ価値観に則して、その価値が適切に伝わるように顧客企業の戦略やブランディング、ビジネスプロセス等も踏まえてデザインを実装していきます。その際に、当社のUXデザイナー及びUIデザイナーが中心となり、顧客企業のプロジェクトチームと一体となり、デザインプロジェクトをリードします。主にWebサイトやアプリケーション等のデジタルプロダクトのデザイン開発を進めたい顧客企業に対しては、顧客企業が必要とするUI/UXデザイン(注2)の実現を支援します。さらにそのようなデジタルプロダクトの実装や開発までを希望する顧客企業に対しては、当社のエンジニアによりアプリケーション開発を行います。そのような過程において、顧客企業は既存ビジネスプロセスをデジタル化し、イノベーションの創出を図ることが可能です。また、顧客起点の新たな価値創出のための変革を図りたい顧客企業に対しては新規事業の検証やアイデアを創出するための支援についても行っております。

近年デジタルトランスフォーメーション(DX)が注目を集め、企業がデジタル領域において変革を求められる状況の中で、デザインの持つ役割の重要性は益々高まっております。そのような状況の中、デザインパートナー事業では、数多くのデジタルデザイン支援の知見を集約し、経験豊富なデザイナーを集め、育成することで、より多くの企業に対して、高品質なデザイン支援を行うことが可能になります。そのため、デザインパートナー事業はデザイナーの採用活動を積極的に行い、提供リソースであるデザイナー人員を拡大するとともに、より幅広い業種業態の顧客企業に対してデザイン支援を実施してまいりました。加えて、日本国内の正社員デザイン部門及び「Goodpatch Anywhere」における営業リードの共有に加え、プロジェクト獲得やデザイナーリソースの連携を行ってまいりました。なお、2023年8月期第1四半期連結会計期間より、従来、デザインプラットフォーム事業に含めていた「Goodpatch Anywhere」をデザインパートナー事業に変更しております。

当第2四半期連結累計期間においては、プロジェクト獲得数が増加し、正社員デザイン部門(Goodpatch Anywhereを除く)によるプロジェクト提供を行った顧客社数(注3)は42.7社(前年同期は29.3社、前年同期比45.5%増)、月額平均顧客単価(注4)は5,154千円(前年同期は6,383千円、前年同期比19.2%減)となりました。また、当第2四半期連結会計期間末において、正社員デザイン部門(Goodpatch Anywhereを除く)のデザイナー数は139名(前年同期比8.6%増)、「Goodpatch Anywhere」の所属デザイナー数は481名(うち稼働デザイナー数は72名、前年同期比30.7%増)となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるデザインパートナー事業の外部顧客への売上高は1,676,002千円(前年同期比2.5%減)、営業利益は182,851千円(前年同期比53.8%減)となりました。なお、デザインパートナー事業における主なKPIの推移は下記表のとおりであります。

(デザインパートナー事業のKPI推移)

	2022年8月期				2023年8月期		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	
	実績	実績	実績	実績	実績	実績	前年同期比
顧客社数 (社)	26.7	29.3	36.7	35.0	29.3	42.7	45.5%
月額平均顧客単価 (千円)	7,816	6,383	6,027	5,685	6,329	5,154	△19.2%

※2022年8月期第3四半期連結会計期間より、顧客社数及び月額平均顧客単価は、連結子会社の株式会社スタジオディテイルズの数値を含めております。

※Goodpatch Anywhereの数値は含めておりません。

② デザインプラットフォーム事業

デザインプラットフォーム事業は、デザインパートナー事業によって行われるUI/UXデザイン支援を様々な側面からサポートするサービスを提供しております。具体的には、自社で構築したデザイン人材プールを活用したデザイナー採用支援サービス「ReDesigner」、SaaS型のオンラインホワイトボードツール「Strap」及びデザインパートナー事業で培ったナレッジの蓄積をもとにしたプロトタイピングツール(注5)「Prott」で構成され、それぞれのシナジーを創出し、デザインに関連したビジネスの拡大を行うものとなります。

当第2四半期連結会計期間においては、「ReDesigner」は、中途人材紹介サービスにおける紹介実績が減少しております。「Strap」並びに「Prott」においては、「Prott」のリソースを有効に活用し、「Strap」の機能開発を推進しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるデザインプラットフォーム事業の外部顧客への売上高は142,066千円(前年同期比3.0%増)、営業損失は63,955千円(前年同期は53,263千円の営業損失)となりました。

- (注) 1. デジタルトランスフォーメーション(DX)とは、Digital Transformationの略語で、企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること、を意味します。
2. UI(User Interface/ユーザーインターフェース)とは、「ユーザーがPCやスマートフォン等のデバイスとやり取りをする際の入力や表示方法などの仕組み」を意味します。また、UX(User Experience/ユーザーエクスペリエンス)は「サービスなどによって得られるユーザー体験」のことを指します。
3. 顧客社数とは、デザインパートナー事業において、当社グループとデザインプロジェクトを進めるために契約した顧客企業の社数を指しており、1か月にデザイン支援を提供した顧客社数の3か月の平均値を示しています。
4. 月額平均顧客単価とは、(1か月にデザイン支援を提供した顧客社数の売上総額 / 1か月にデザイン支援を提供した顧客社数)の3か月の平均値を示しています。
5. プロトタイピングとは、最終成果物の試作品を早い段階から作り、改善を繰り返す手法のことを意味します。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて162,672千円減少し、3,149,399千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少255,495千円があった一方で、売掛金及び契約資産の増加73,836千円、前払費用の増加11,888千円があったこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて45,817千円減少し、812,052千円となりました。主な要因は、償却によるのれんの減少31,733千円、敷金及び保証金の減少4,957千円があった一方で、デザインパートナー投資の実行等による投資有価証券の増加7,288千円があったこと等によるものであります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて208,490千円減少し、3,961,451千円となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ231,354千円減少し、477,916千円となりました。主な要因は、未払金の減少59,533千円、法人税等の支払いによる未払法人税等の減少49,988千円、消費税等の支払いによる未払消費税等の減少53,293千円があったこと等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ84,470千円減少し、166,850千円となりました。主な要因は、借入金の返済による長期借入金の減少62,948千円及び連結子会社Goodpatch GmbHにおけるリース債務の減少22,686千円によるものであります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて315,824千円減少し、644,767千円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて107,334千円増加し、3,316,684千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益計上等に伴う利益剰余金の増加97,979千円によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ255,495千円減少し、2,654,966千円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは194,229千円の支出（前年同期は163,670千円の収入）となりました。これは主に、デザインパートナー事業及びデザインプラットフォーム事業が相互にシナジーを創出することに注力しながら各事業を推進してきたことの成果としての税金等調整前四半期純利益の計上159,487千円、株式会社スタジオディテイルズの買収に伴うのれん償却額31,733千円等の増加要因があったものの、連結子会社Goodpatch GmbHの清算手続きに伴う事業整理益の計上35,967千円及び未払金の減少61,895千円、売上高増加に伴う売上債権及び契約資産の増加73,209千円、法人税等の支払額105,289千円、未払消費税等の減少53,396千円等の減少要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは2,810千円の支出（前年同期は621,388千円の支出）となりました。これは主に、連結子会社Goodpatch GmbHの清算手続きに伴う敷金及び保証金の回収による収入2,288千円の増加要因があったものの、投資有価証券の取得による支出4,000千円等の減少要因があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは62,116千円の支出（前年同期は462,296千円の収入）となりました。これは主に、新株予約権の行使による株式の発行による収入5,625千円の増加要因があったものの、長期借入金の返済による支出62,908千円や連結子会社Goodpatch GmbHにおけるリース債務の返済による支出4,834千円等の減少要因があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期通期の連結業績予想につきましては、2022年10月14日の「2022年8月期通期決算短信」で公表しました通期連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2023年4月14日）公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,910,461	2,654,966
売掛金及び契約資産	348,971	422,807
仕掛品	1,752	3,346
前払費用	45,073	56,962
その他	5,812	11,317
流動資産合計	3,312,071	3,149,399
固定資産		
有形固定資産		
建物	68,769	68,769
減価償却累計額	△27,242	△29,607
建物(純額)	41,526	39,161
工具、器具及び備品	89,729	76,928
減価償却累計額	△71,437	△62,633
工具、器具及び備品(純額)	18,292	14,294
有形固定資産合計	59,819	53,456
無形固定資産		
商標権	1,984	1,861
のれん	539,472	507,739
顧客関連資産	69,888	65,777
その他	96	72
無形固定資産合計	611,441	575,450
投資その他の資産		
投資有価証券	54,441	61,730
敷金及び保証金	28,929	23,972
繰延税金資産	93,731	89,443
その他	9,505	8,000
投資その他の資産合計	186,608	183,145
固定資産合計	857,870	812,052
資産合計	4,169,942	3,961,451

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	47,377	37,718
1年内返済予定の長期借入金	125,816	125,856
未払金	148,026	88,492
未払費用	61,114	36,990
未払法人税等	123,911	73,922
未払消費税等	98,175	44,881
契約負債	42,489	46,720
リース債務	20,224	-
賞与引当金	215	-
その他	41,921	23,334
流動負債合計	709,271	477,916
固定負債		
長期借入金	192,731	129,783
リース債務	22,686	-
資産除去債務	11,560	11,568
繰延税金負債	24,342	25,498
固定負債合計	251,320	166,850
負債合計	960,592	644,767
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,511,039	1,513,911
資本剰余金	1,506,039	1,508,911
利益剰余金	186,620	284,599
自己株式	△110	△110
株主資本合計	3,203,588	3,307,312
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△2,407	△2,916
その他の包括利益累計額合計	△2,407	△2,916
新株予約権	8,168	12,289
純資産合計	3,209,349	3,316,684
負債純資産合計	4,169,942	3,961,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
売上高	1,857,168	1,818,068
売上原価	654,853	749,780
売上総利益	1,202,314	1,068,287
販売費及び一般管理費	859,905	949,592
営業利益	342,409	118,695
営業外収益		
受取利息	12	12
持分法による投資利益	-	3,724
受取家賃	5,067	-
その他	725	3,454
営業外収益合計	5,805	7,191
営業外費用		
支払利息	2,279	744
為替差損	24	208
株式交付費	2,969	118
その他	1,482	1,295
営業外費用合計	6,756	2,366
経常利益	341,459	123,520
特別利益		
事業整理益	-	35,967
特別利益合計	-	35,967
税金等調整前四半期純利益	341,459	159,487
法人税、住民税及び事業税	114,267	56,062
法人税等調整額	9,048	5,444
法人税等合計	123,316	61,507
四半期純利益	218,142	97,979
親会社株主に帰属する四半期純利益	218,142	97,979

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益	218,142	97,979
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△220	△509
その他の包括利益合計	△220	△509
四半期包括利益	217,922	97,470
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	217,922	97,470
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	341,459	159,487
減価償却費	21,905	11,408
のれん償却額	-	31,733
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	△6,333	-
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,645	△215
為替差損益 (△は益)	104	-
受取利息	△12	△12
受取家賃	△5,067	-
支払利息	2,279	744
株式交付費	2,969	118
持分法による投資損益 (△は益)	-	△3,724
事業整理益	-	△35,967
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△78,564	△73,209
棚卸資産の増減額 (△は増加)	20,283	△1,593
前払費用の増減額 (△は増加)	△8,050	△11,849
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,246	△9,891
未払金の増減額 (△は減少)	△24,724	△61,895
未払費用の増減額 (△は減少)	△12,968	△24,750
契約負債の増減額 (△は減少)	△32,106	4,170
未払消費税等の増減額 (△は減少)	1,337	△53,396
その他	△27,713	△19,370
小計	198,689	△88,211
利息及び配当金の受取額	12	12
利息の支払額	△2,275	△740
家賃の受取額	5,067	-
法人税等の支払額	△37,822	△105,289
営業活動によるキャッシュ・フロー	163,670	△194,229
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,921	△1,099
敷金及び保証金の差入による支出	△100	-
敷金及び保証金の回収による収入	1,862	2,288
投資有価証券の取得による支出	△34,000	△4,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△582,259	-
その他	29	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△621,388	△2,810
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△56,662	△62,908
新株予約権の行使による株式の発行による収入	530,041	5,625
リース債務の返済による支出	△11,082	△4,834
財務活動によるキャッシュ・フロー	462,296	△62,116
現金及び現金同等物に係る換算差額	△219	3,661
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,359	△255,495
現金及び現金同等物の期首残高	2,780,074	2,910,461
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,784,433	2,654,966

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						四半期 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業				デザイン プラットフォーム 事業	計	
	日本国内	Goodpatch Anywhere	ヨーロッパ (ドイツ)	小計			
売上高							
外部顧客への 売上高	1,049,755	468,620	200,831	1,719,207	137,960	1,857,168	1,857,168
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,049,755	468,620	200,831	1,719,207	137,960	1,857,168	1,857,168
セグメント利益 又は損失(△)	205,589	171,501	18,582	395,672	△53,263	342,409	342,409

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第2四半期連結会計期間において、株式会社スタジオディテイルズの全株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。当該事象による「デザインパートナー事業」セグメントにおけるのれんの増加額は、571,206千円であります。なお、当該のれんの増加額は、「注記事項(企業結合等関係)」の「比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し」に記載の暫定的な会計処理の確定の内容が反映された金額によっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						調整額	四半期 連結損益 計算書 計上額
	デザイン パートナー事業				デザイン プラットフォーム 事業	計		
	日本国内	Goodpatch Anywhere	ヨーロッパ (ドイツ)	小計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,301,756	340,896	33,348	1,676,002	142,066	1,818,068	—	
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	199	199	△199	
計	1,301,756	340,896	33,348	1,676,002	142,266	1,818,268	△199	
セグメント利益 又は損失(△)	166,950	49,651	△33,750	182,851	△63,955	118,895	△199	

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、「Goodpatch Anywhere」の経営資源を、事業戦略の類似性、関連性に基づき「デザインパートナー事業」に配分する組織体制に移行したことに伴い、従来「デザインプラットフォーム事業」に含めていた「Goodpatch Anywhere」を「デザインパートナー事業」に変更いたしました。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

(企業結合等関係)

(比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し)

2021年12月22日に行われた株式会社スタジオディテイルズとの企業結合について、前第2四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、前連結会計年度末に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、無形固定資産の顧客関連資産に74,000千円、固定負債の繰延税金負債に25,478千円が配分されました。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額は619,728千円から48,521千円減少し、571,206千円となっております。

なお、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書に与える影響はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。